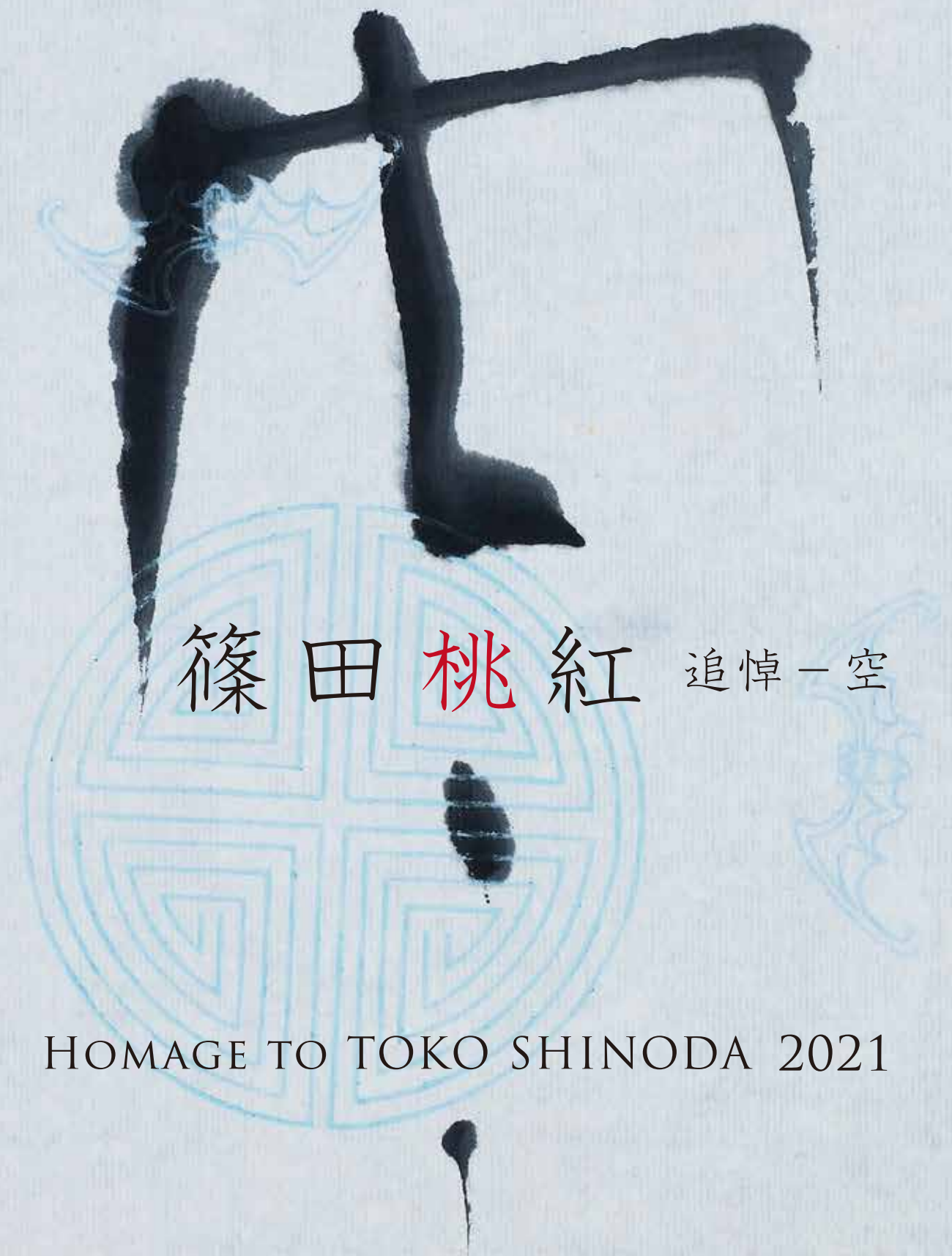


篠田 桃紅
追悼 - 空

HOMAGE TO TOKO SHINODA 2021

発行 ギャラリーサンカイビ
編集 平田美智子・高島順子
© 2021
〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-22-5
TEL: 03-5649-3710 <https://www.sankaibi.com>

Published in 2021 by Gallery SanKaiBi
Edited by Michiko Hirata・Junko Takashima
2-22-5 Hamacho, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0007
TEL: 81-3-5649-3710 <https://www.sankaibi.com>



HOMAGE TO TOKO SHINODA 2021

追悼 一空

東洋的な伝統美と革新的な造形美を融合させて、「墨象」という新しいジャンルを切り拓き、世界のアートシーンに影響を与えた孤高の美術家、篠田桃紅氏。（3月1日逝去 107歳）3月に生まれたことからお父様が桃に紅で「桃紅」という雅号をおつけになりました。

「桃紅」は中国の禅林句集「桃紅李白薔薇紫 問著春風總不知」に由来します。桃は紅、季は白、薔薇は紫、それはどうしてなのでしょう？と春風に聞いてみても 知らないと言う。それぞれの花がそれぞれの色に咲くように、人もまた相異なるそれぞれの人生があるという教えです。花はなぜ咲くのか、そこには答えがありません。人間社会も栄枯盛衰を繰り返し、一瞬たりとも移り変わらないものはない。順境と逆境、いかなる時においても一喜一憂することなく、宇宙の原理に従って、無為自然に生きる。篠田氏はまさに雅号の通り、首尾貫徹した人生を歩まれたのではないのでしょうか。

中国・大連に生まれ、幼い頃から書を学び、戦後に書家として活動を始める一方、水墨による抽象絵画をはじめ1956年に渡米。米国各地で個展を開き、書と抽象絵画を融合させた新しい作風が高く評価され、時の人となりました。

水墨に金銀や朱を交え、幽玄さと鋭い造形感覚を併せ持つ作品は、メトロポリタン美術館やボストン美術館をはじめ、国内外の美術館に収蔵されています。また皇居・御所、京都迎賓館を飾る絵画や在外公館、劇場などの壁画や緞帳を手がけるほか、代表作は増上寺の壁画や襖絵などがあります。

名文家でも知られ、79年に随筆集「墨いろ」で日本エッセイスト・クラブ賞を受賞。著書「一〇三歳になってわかったこと」は幅広い年代に支持され、ベストセラーになりました。

「なんにもない、そんなものを描きたい。」と篠田氏は晩年、よくそう語っていました。空(くう)、すなわち空(そら)が永遠に繋がり切れ目がないように、一滴の水が川になり海に繋がるように、なにものにも囚われず、無執着で開放された自由な空間の広がり表現することが、篠田氏の終着点だったのではないかとおもいます。見えないものや形にならないものを可視の「かたち」にしたい、そんな強い祈りにも似た原始の色や音、香りやかたちが篠田作品から五感を通して伝わってきます。

「私の命は有限ですが、作品は永遠です。」「言葉ではなく作品から何が伝わるかが重要です。」と常に語っていた桃紅氏。死の直前まで「もっといいものを創りたい。」と墨と格闘し続けた篠田氏の描く一本一本の広がりのある線を心ゆくまでご覧いただければ幸いです。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

ギャラリーサンカイビ

平田 美智子



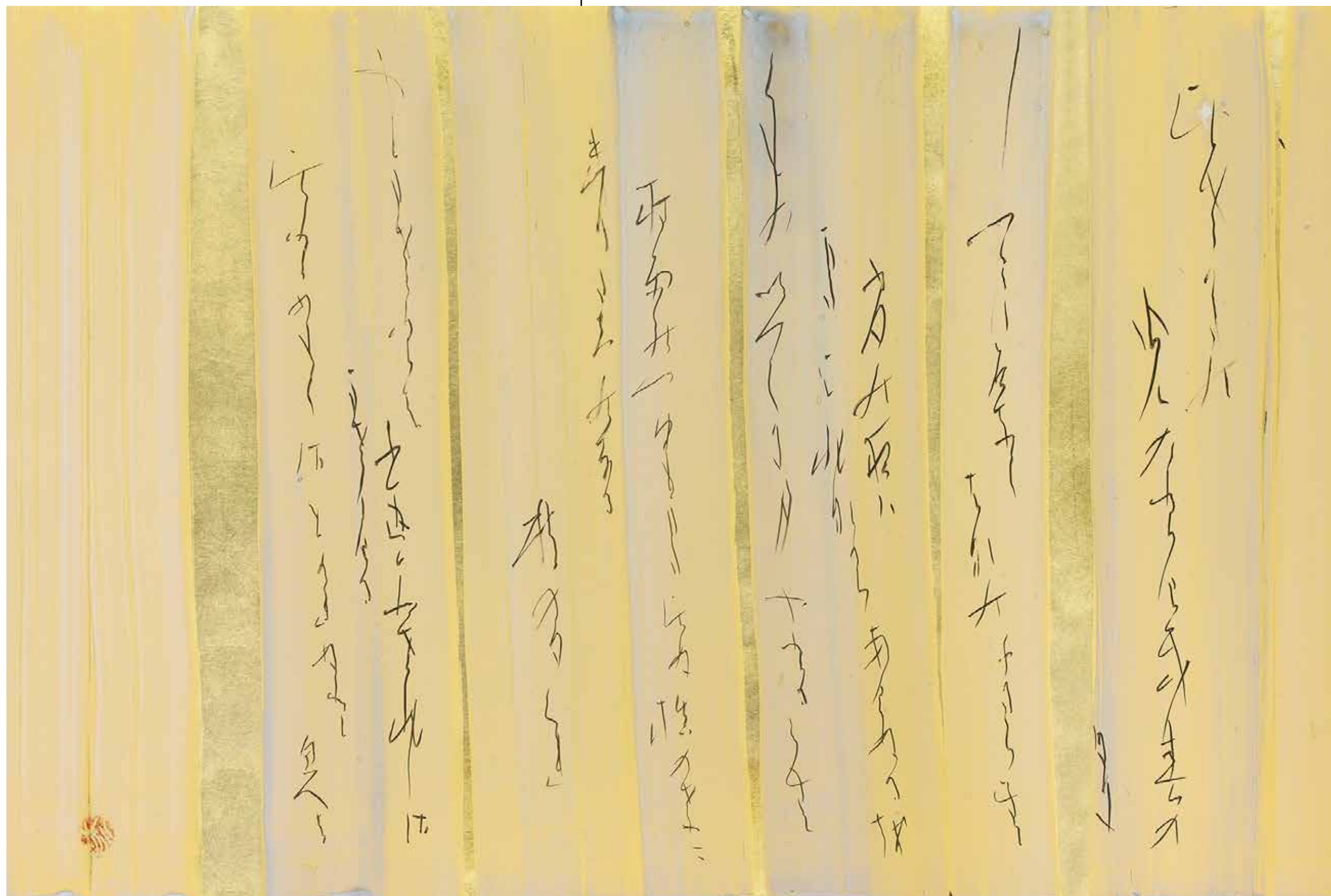


1.

うつろい / Transition

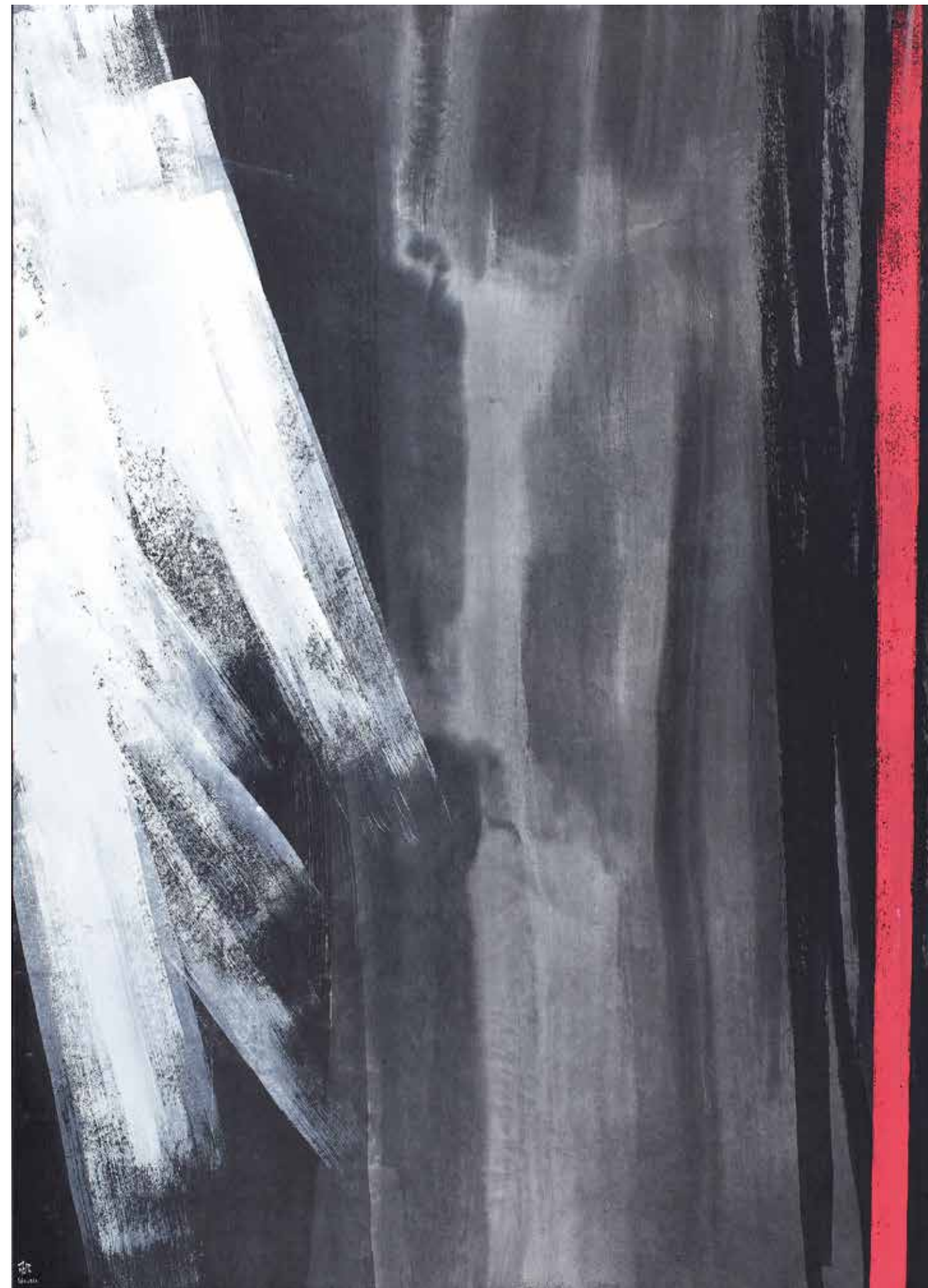
1970年代 和紙に墨・朱・金泥・銀泥 140×93 cm

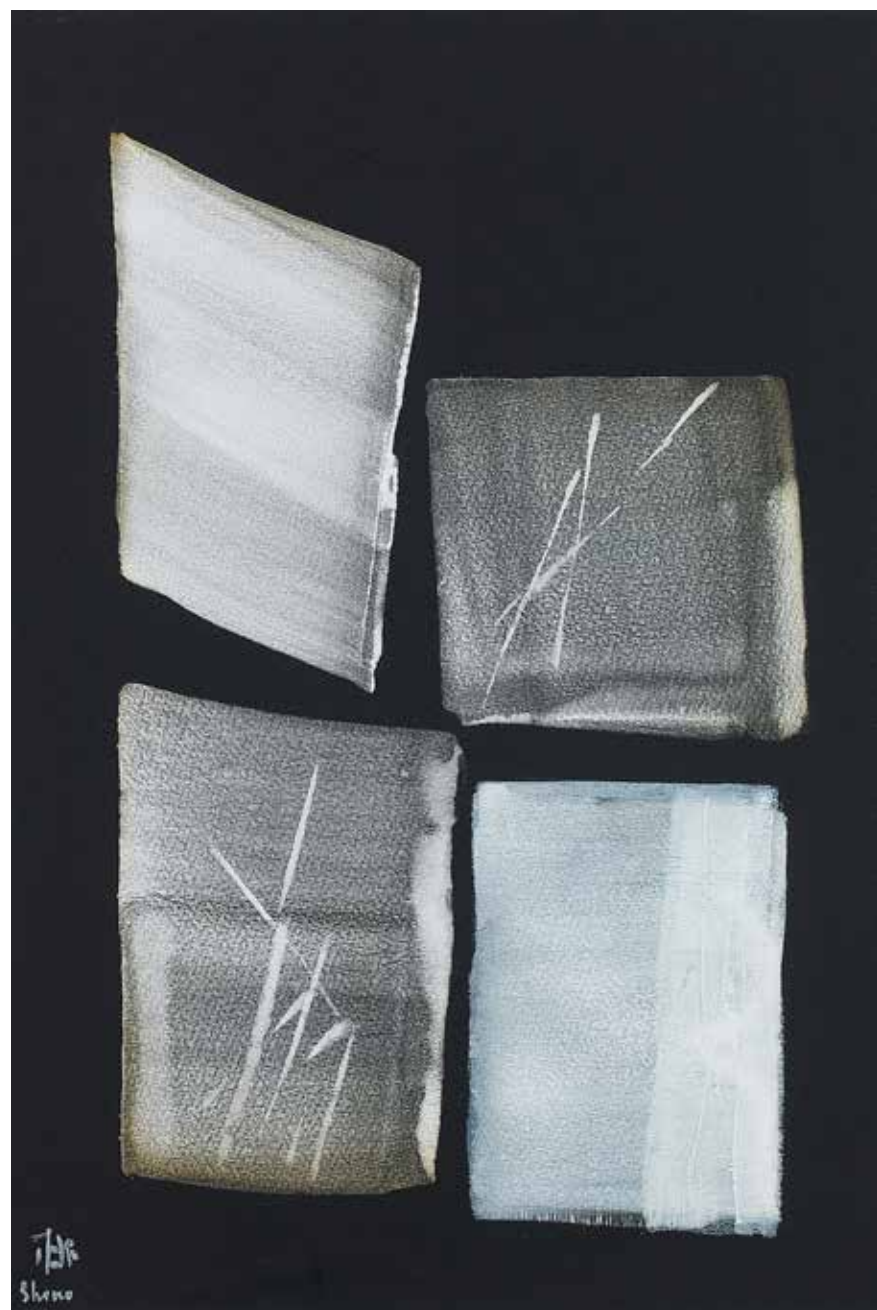
Sumi, Cinnabar Ink, Gold Paint, Silver Paint on Paper



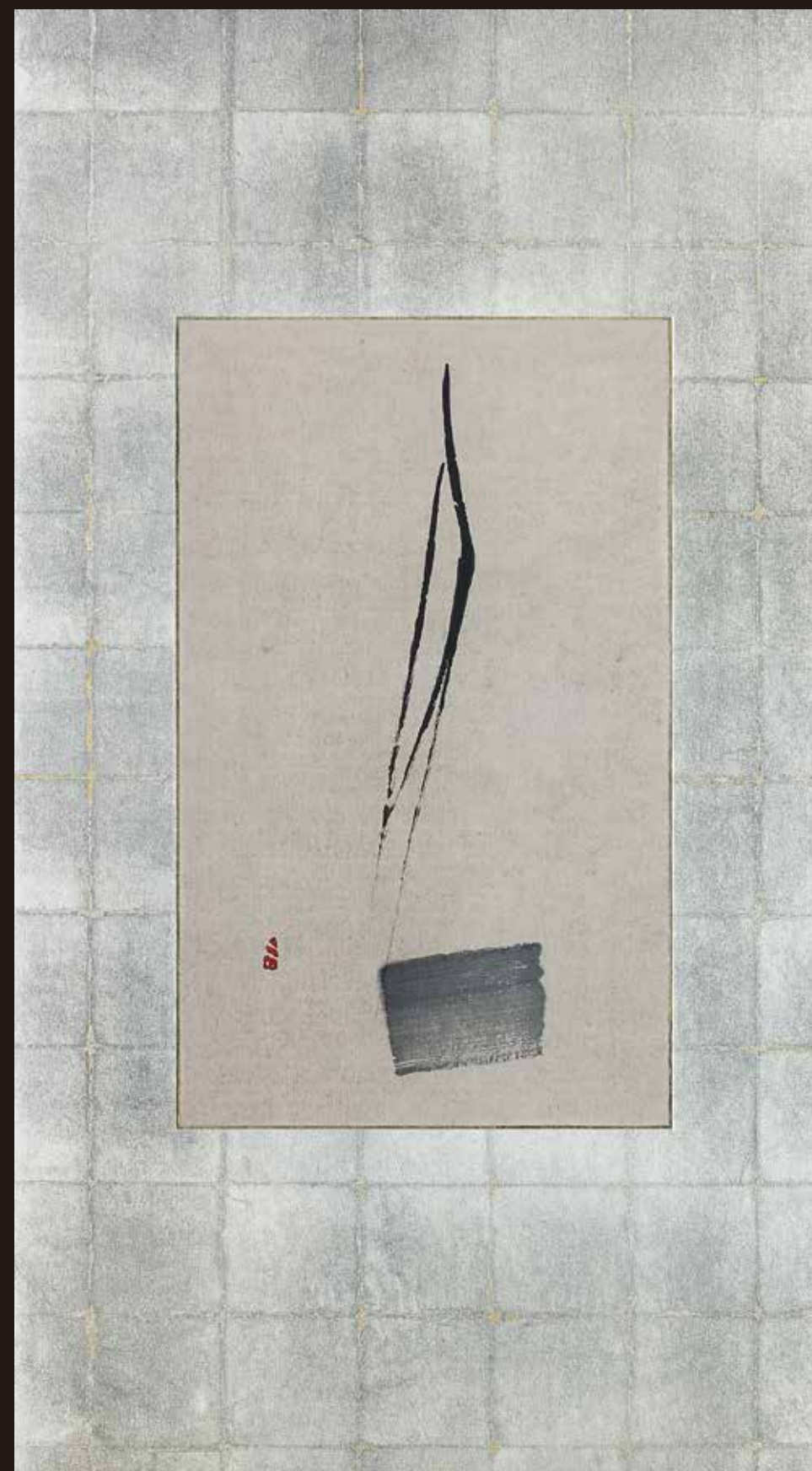


3.
春暁 / Daybreak
和紙に墨・朱・胡粉 205×148cm
Sumi, Cinnabar Ink, White Paint on Paper

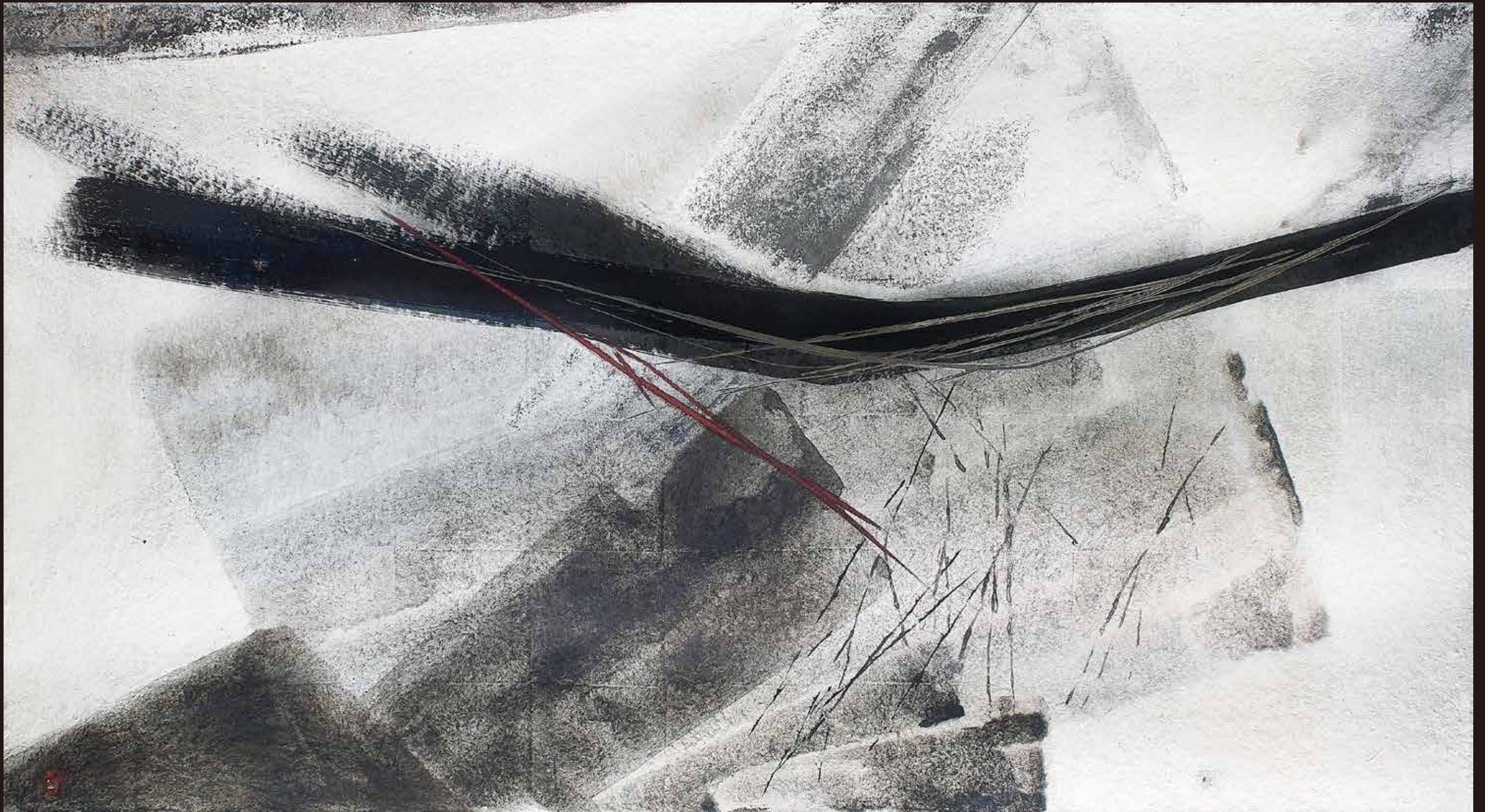




4.
叙事詩 / EPIC
2009年 紙に銀泥・白泥 46×31cm
White Paint, Silver Paint on Paper



5.
月 / Moon
画仙紙に墨 47×28.5cm
Sumi on Paper

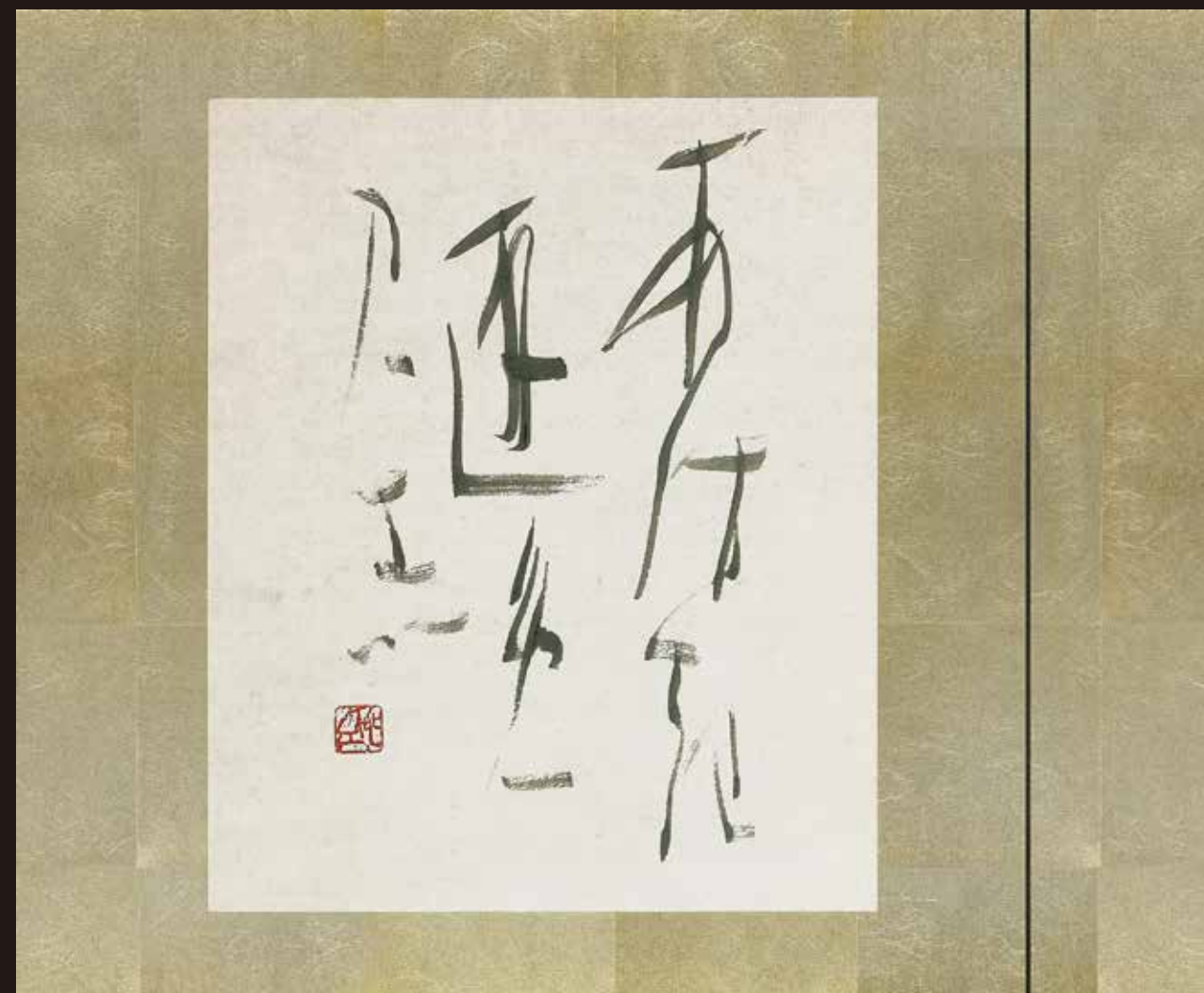


6.
風の路 / Wind Path
1988年 銀地に墨・朱・銀泥 75×135cm
Sumi, Cinnabar Ink, Silver Paint, Silver leaf on Paper



色は匂へど 散りぬるを 我が世誰そ 常ならむ 有為の奥山 今日越えて 浅き夢見じ 酔ひもせず

7.
あさきゆめ / Shallow Dreams
和紙に墨 74×14.2cm
Sumi on Paper



8.
あさきゆめみし / Shallow Dreams
画仙紙に墨 53×43.5 cm
Sumi on Paper



梵のうへ

あはれ花びらながれ
をみなごに花びらながれ
をみなごしめやかに語らひあゆみ
うららかな梵音空にながれ
をりふしに瞳をあげて
翳りなきみ寺の春をすぎゆくなり
み寺の薨みどりにうるほひ
廂廂に
風鐸のすがたしづかなれば
ひとりなる
わが身の影をあゆまする
梵のうへ

三好達治「測量船」より 一九三〇年

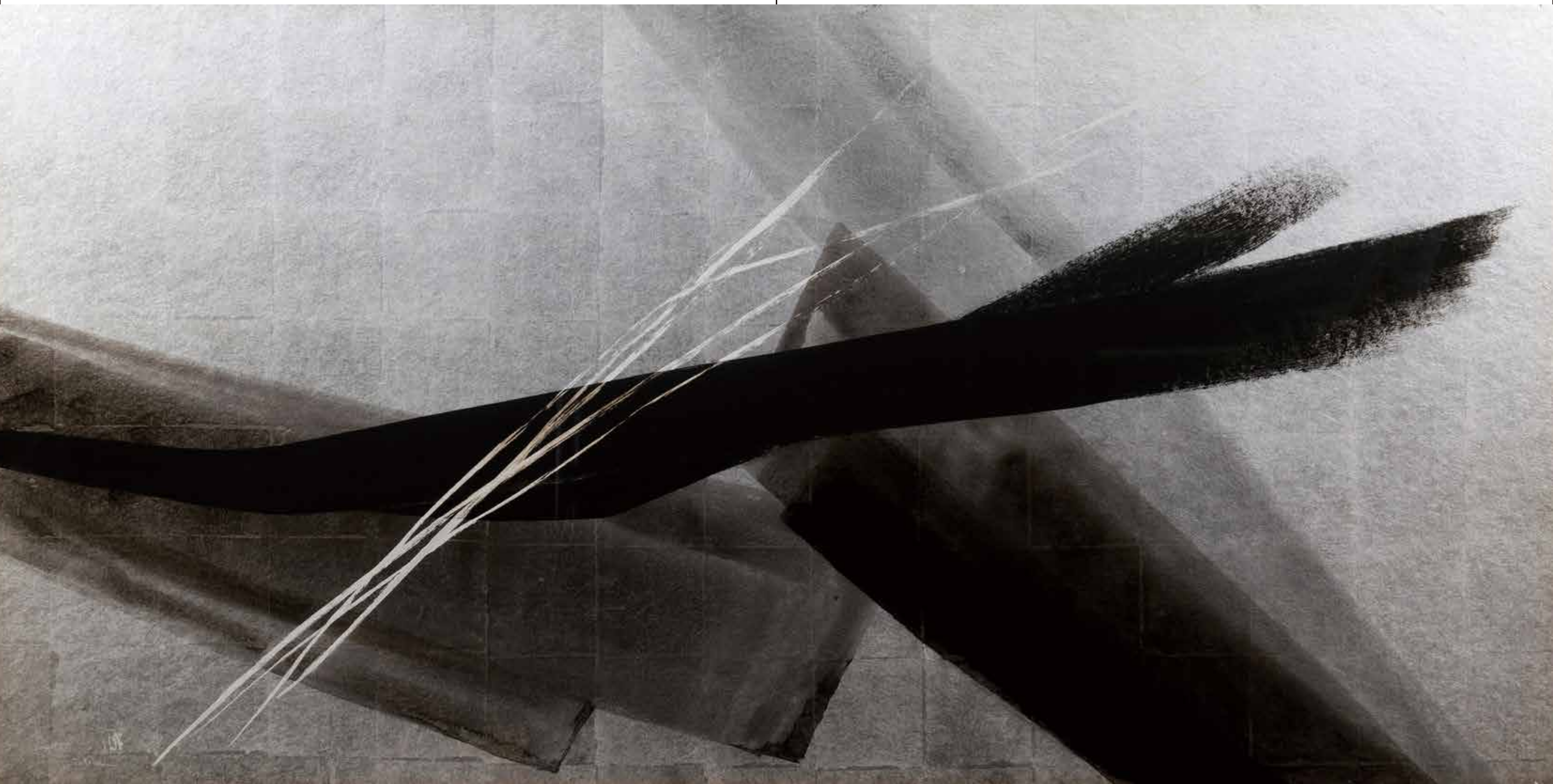


10.

宵 / Dawn

2015年 金地に墨・朱・銀泥・胡粉 30×25cm

Sumi, Cinnabar Ink, Silver Paint, White Paint, Gold Leaf on Paper



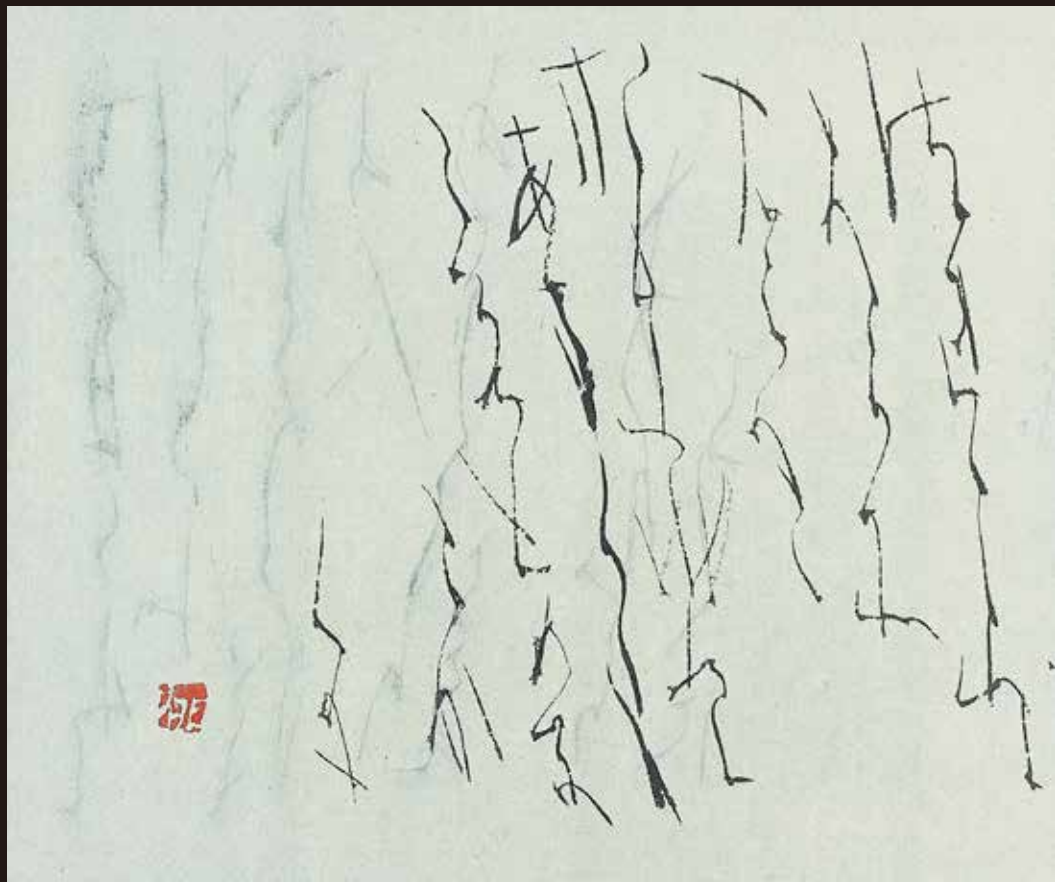
11.
音 / Sound
銀地に墨・銀泥 90×181.2 cm
Sumi, Silver Paint, Silver Leaf on Paper



12.
星雲 / Galaxy
和紙に墨 74.7×47.4 cm
Sumi on Paper

墨色にたすけられるように、想いが充ちてくれば、
ある機が訪れてかたちが生まれる気配もある。
心のうちに煙のように立ち昇るもの、
煙よりも捉えがたく、見がたい、人の心という不可視のもの、
しかし不可視であってもかたちを持つものを、
可視のかたちにしたい、と希う。

「おもいのほかの」より



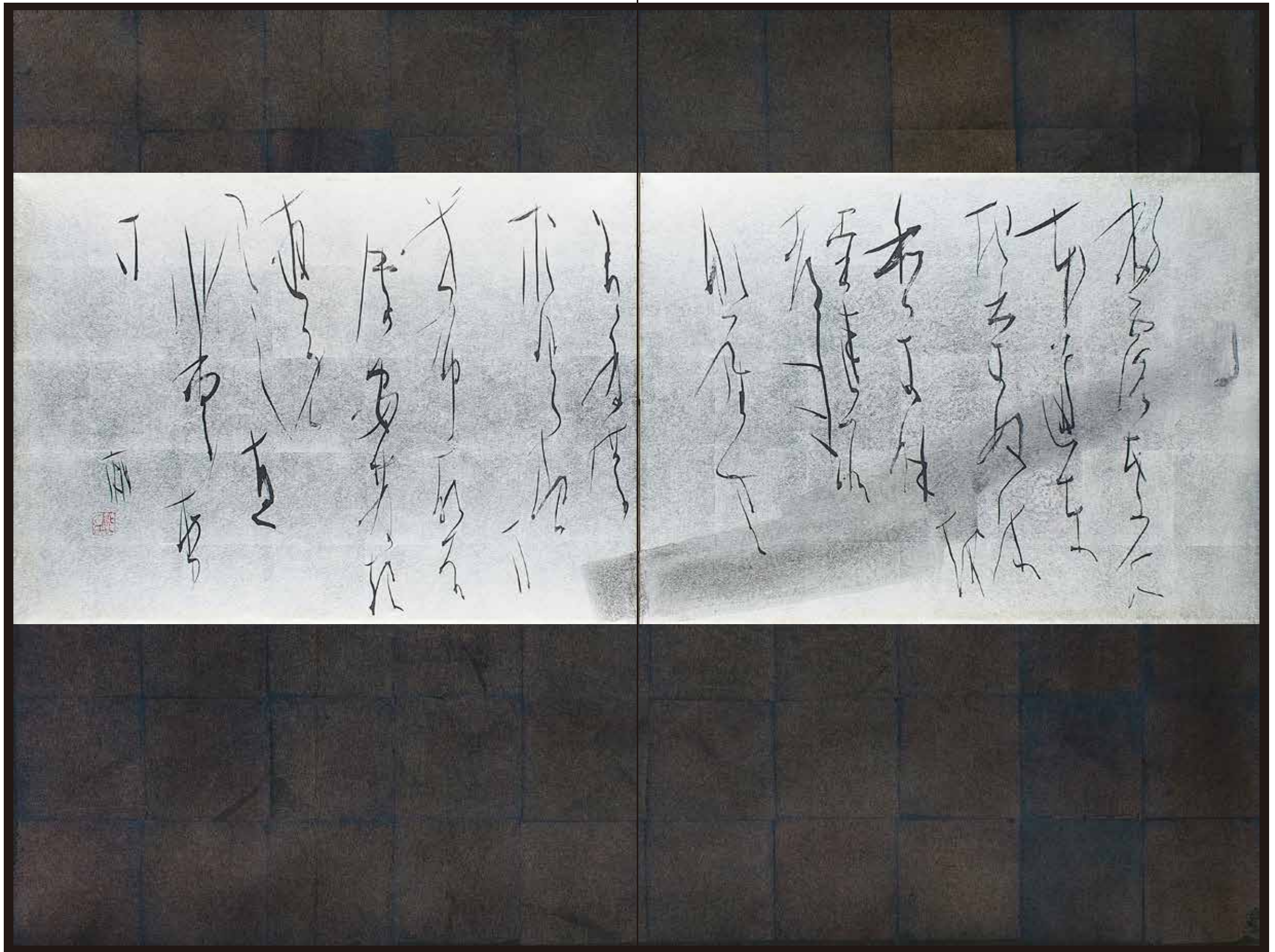
つれづれと 空ぞ見らるる 思う人
天降り来む ものならなくに

和泉式部



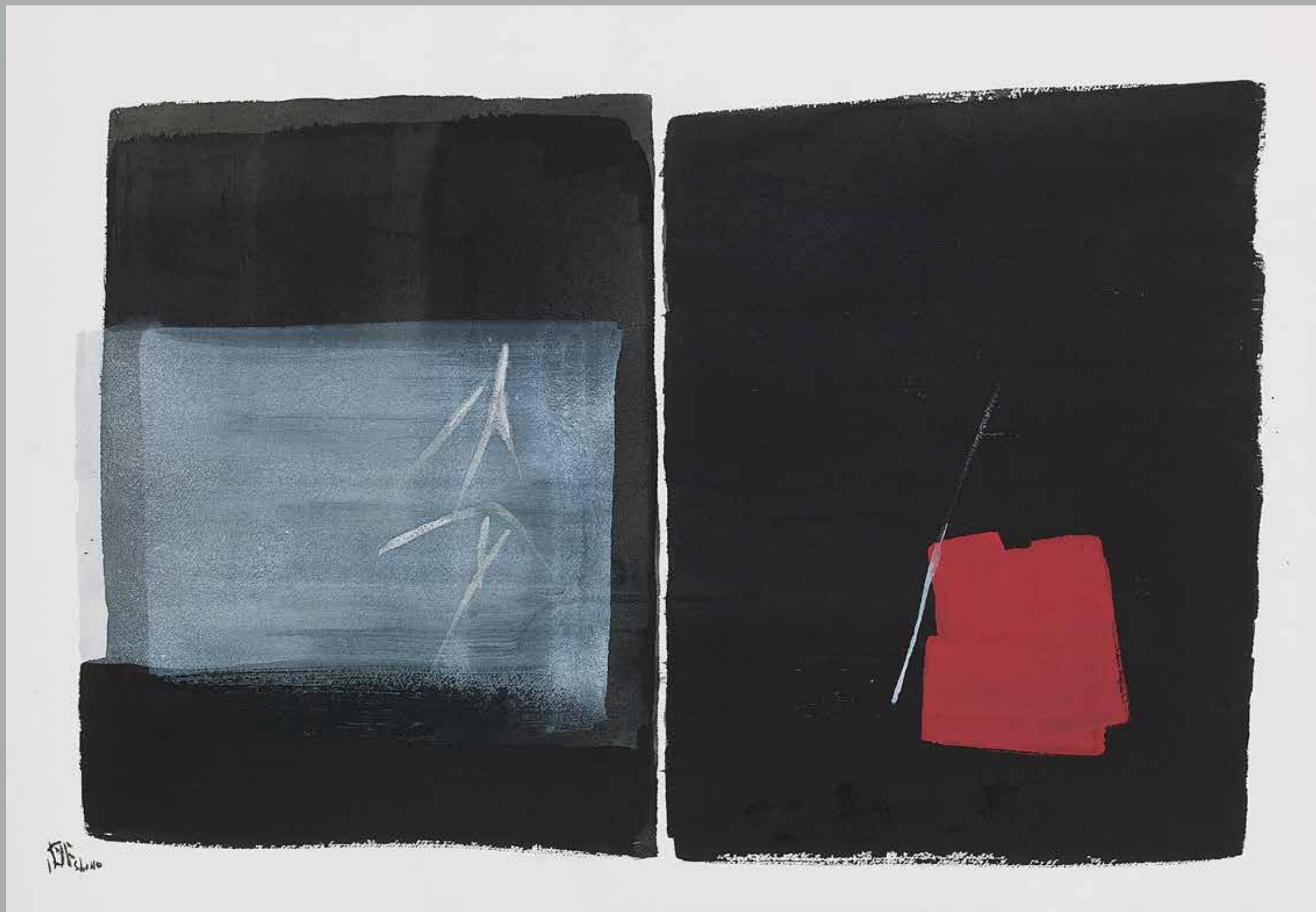
君やこし 我やゆきけむ おもほえず 夢かうつつか 寝てか覚めてか

伊勢物語より



※表装部分はイメージ画像です。

15.
いろは / Iroha Poem
銀地に墨 60×170cm (イメージサイズ) 176×173cm (二曲一隻屏風サイズ)
Sumi, Silver leaf on Paper





17.
飛鳥出林/ Flying Bird from the Forest
和紙に墨 67.5×48.5cm
Sumi on Paper



18.
雁 / Wild Goose
画仙紙に墨 38.5×31cm
Sumi on Paper



19.
四季 / Four Seasons
紙に墨・金泥・銀泥 55×38cm
Sumi, Gold Paint, Silver Paint on Paper



20.
記す / Indication
紙に墨・銀泥・金泥 61×37cm
Sumi, Gold Paint, Silver Paint on Paper

篠田桃紅 TOKO SHINODA

1913	0	3月28日、旧満州、大連に生まれる
1929	16	女学校の師である、下野雪堂に書の個人指導を受け始める
1932	19	与謝野晶子門下の歌人・中原綾子に短歌の添削指導を受け、雑誌「いづかし」などに投稿
1940	27	初めての書の個展(鳩居堂、銀座)
1950	37	書道芸術院に所属(～1956年) 春蘭、桃紅二人展(銀座三越)
1953	40	「日本の建築と書展」(ニューヨーク近代美術館、以後米巡回)
1954	41	サンパウロ市400年祭の日本政府館(丹下健三設計)のために壁書《花の歌》を制作
1955	42	映画<日本の書>の撮影の為、桃紅の制作現場を取材(1956年完成:P・アレシンスキー監督) ワシントン州国際見本市日本モデルルーム(剣持勇設計)の為に《炎・水》を制作 ヘルシンボール生活文化展(スウェーデン)日本館(剣持勇設計)の為に壁書《詩》を制作
1956	43	渡米、ニューヨークに滞在 個展(スエゾフ・ギャラリー、ボストン)
1957	44	個展 タフト美術館、シンシナティ、アート・インスティテュート・オブ・シカゴ東洋室、シカゴ バーサ・ジェイファーズ・ギャラリー、ニューヨーク、ギャラリー・ラ・ユース、パリ
1959	46	個展 パレ・デ・ボザール、ブリュッセル 「日本美術の伝統と革新-白隠、志功、桃紅、南谷4人展」(クレラー・ミュラー美術館、オテルロー)
1960	47	フィラデルフィアから来日した刷師アーサー・フロリーの勧めで、リトグラフ制作を始める パレスホテル(東京)特別貴賓室(1)、特室(3)の為に壁画《みなもと》他3点を制作
1961	48	第6回サンパウロ・ビエンナーレ招待出品
1963	50	明治座(吉田五十八設計、東京)の為に緞帳を制作
1964	51	国立代々木屋内総合競技場(丹下健三・都市建築設計研究所設計、東京)貴賓室の為に壁画《水冠》を制作
1965	52	個展(ベティ・パーソンズ・ギャラリー、ニューヨーク 以降77年まで) 国立京都国際会館(大谷幸夫設計)2階ロビーの為にレリーフ《展開》と壁画《出遇》を制作
1966	53	カナダ・モントリオール万国博覧会日本館(芦原義信設計)中央展示室の為に壁画《みなもと》を制作
1970	57	東京都港区南青山に現在のアトリエを構える。
1974	61	増上寺(東京)大本堂、ロビーの為に壁画を、道場の為に襖絵を制作
1977	64	ワシントン駐米日本大使公邸(吉田五十八設計)の為に壁画を制作
1978	65	個展 アート/アジア・ギャラリー、ケンブリッジ大学
1979	66	随筆集『墨いろ』出版、第27回日本エッセイスト・クラブ賞受賞 「岡田、篠田、津高[20世紀日本抽象絵画三人のパイオニア]」(フィリップス・コレクション、米巡回) ホテル・ヴァイトシャ(黒川紀章設計、ソフィア、ブルガリア)の為に壁画を制作
1983	70	「篠田桃紅書 守屋多々志画 小倉百人一首展」(日本橋三越本店、東京 以後国内を巡回)
1986	73	1986年ノーベル賞の為の『オマージュ・オ・ノーベル』(オリジナル・リトグラフ集)刊行
1992	79	回顧展「篠田桃紅 時のかたち」(岐阜県美術館)
1993	80	御所、御食堂の為に絵画を制作
1996	83	個展「TOKO SHINODA VISUAL POETRY」(シンガポール国立近代美術館、シンガポール)
1998	85	個展 アネリー・ジュダ・ギャラリー、ロンドン
1999	86	「東京文化会館」名称ロゴを制作
2001	88	個展(三菱UFJモルガン・スタンレー証券の30周年記念展)
2003	90	個展「篠田桃紅 朱よ」(原美術館、東京)皇后陛下行啓 菊池寛実記念 智美術館の為にロビー・階段室に壁画を制作 「篠田桃紅美術空間」岐阜県関市に設立
2004	91	個展(ギャラリーサンカイビ、東京 以降ほぼ毎年開催)
2005	92	京都迎賓館の為に絵画を制作 コンラッド東京の為に絵画を制作 雑誌「Newsweek」で「世界が尊敬する日本人100」に選出
2009	96	個展 ローマ日本文化会館、ローマ
2010	97	個展 致道博物館 創立60周年記念特別展、山形
2012	99	巡回展 日本橋三越本店、仙台三越、広島三越、松山三越、銀座三越(皇后陛下行啓)、伊勢丹新宿店
2013	100	個展 伊勢丹新宿店、篠田桃紅美術空間、岐阜現代美術館、岐阜県美術館、菊池寛実記念 智美術館
2014	101	個展 伊勢丹新宿店、銀座三越、松山三越、福岡岩田屋三越
2015	102	個展 伊勢丹新宿店、ギャラリーサンカイビ(皇后陛下行啓)、銀座三越、松山三越、福岡岩田屋三越
2016	103	個展 伊勢丹新宿店、銀座三越、松山三越、大丸神戸店、福岡岩田屋三越
2017	104	個展 伊勢丹新宿店(皇后陛下行啓)、銀座三越、松山三越、福岡岩田屋三越
2018	105	個展 サントミューゼ上田市立美術館、伊勢丹新宿店、仙台三越、岡山天満屋、銀座三越、福岡岩田屋三越 香雪美術館、兵庫県
2019	106	個展 高梁市成羽美術館、福山天満屋、岡山天満屋、伊勢丹新宿店、ジェイアール名古屋高島屋 個展 ギャラリーサンカイビ
2020	107	個展 富山県水墨美術館、福岡岩田屋三越、伊勢丹新宿店、銀座三越
2021		3月1日 逝去 個展 福岡岩田屋三越、伊勢丹新宿店、ギャラリーサンカイビ

【主な収蔵美術館】

アート・インスティテュート・オブ・シカゴ
オルブライト=ノックス美術館(ニューヨーク)
菊池寛実記念 智美術館
岐阜県美術館
岐阜現代美術館
クレラー・ミュラー美術館(オテルロー)
グッゲンハイム美術館(ニューヨーク)
シンシナティ美術館
スミソニアン博物館(ワシントン)
関市立篠田桃紅美術空間(岐阜県)
シンガポール国立美術館
大英博物館(ロンドン)
ティコティン日本美術館(イスラエル・ハイファ)
ドイツ国立博物館東洋美術館(ベルリン)
東京国立近代美術館
富山県立近代美術館
新潟市美術館
デン・ハーグ市美術館
フォッグ美術館(マサチューセッツ・ハーバード大学)
フォルクヴァンク美術館(エッセン)
ブルックリン美術館(ニューヨーク)
ボストン美術館
北海道立函館美術館
メトロポリタン美術館(ニューヨーク)

【主な著書】

これでおしまい(講談社 2021)
桃紅一〇五歳 好きなものと生きる(世界文化社 2017)
一〇五歳、死ねないのも困るのよ(幻冬舎 2017)
人生は一本の線(幻冬舎 2016)
一〇三歳、ひとりで生きる作法(幻冬舎 2015)
一〇三歳になってわかったこと(幻冬舎 2015)
その日の墨(河出文庫 2014)
百歳の力(集英社 2014)
桃紅百年(世界文化社 2013)
桃紅えほん(世界文化社 2002)
桃紅一私というひとり(世界文化社 2000)
墨を読むー 一字ひとこと(小学館 1998)
きのうのゆくえ(講談社 1990)
日本の名随筆 「墨」(作品社 1985)
おもいのほかの(冬樹社 1985)
朱泥抄(PHP研究所 1979)
墨いろ(PHP研究所 1978) 日本エッセイスト・クラブ賞受賞
いろは四十八文字(矢来書院 1976)

【主な作品収蔵】

アメリカン・クラブ(東京)
川崎市国際交流センター
京都大学基礎物理学研究所
京都迎賓館
皇居(東京)
国際交流基金(東京)
国立代々木競技場
国立京都国際会館
駐仏日本大使館(パリ)
駐米総領事館(ニューヨーク)
駐米日本大使公邸(ワシントン)
日本外国特派員協会(東京)
日本銀行(東京)
ローマ日本文化会館(ローマ)
沼津市庁舎
フォード財団(ニューヨーク)
ロックフェラー財団(ニューヨーク)
朝日生命本社(東京)
オランダ銀行(東京)
京王プラザホテル(東京)
コンラッド東京
ザ・キャピトルホテル東急(東京)
シティ・バンク(ニューヨーク、東京)
増上寺(東京)
モルガン・スタンレー(東京)
帝国劇場(東京)
電通本社(東京)
東京デュボン社(東京)
日航ホテル(東京)
パイオニア本社(東京)
パレスホテル(東京)
フィリップ・モリス社(東京)
福岡RKB放送センタービル
ホテル・オークラ(東京)
ホテル・ニューオータニ(東京)
ホテルKKR金沢
ホテル・ヴァイトシャ(ブルガリア・ソフィア)
明治座(東京)
東燃ゼネラル石油(東京)
UBS(東京)
サ・ベニンシユラ東京
パークハイアット京都

TOKO SHINODA Biography

1913	Born in Dalian, on March 28
1919-35	Studies traditional calligraphy and Waka poetry
1940	First one-woman show, Kyukyodo Gallery, Tokyo
1950	Exhibition Shunran & Toko, Ginza Mitsukoshi, Tokyo
1953	Works displayed at exhibit of Japanese calligraphy, Museum of Modern Art, New York
1954	Calligraphic mural commissioned by the Japanese government pavilion for the 400th anniversary of São Paulo
1955	Works displayed at Abstract Art Exhibition in Japan and U.S.A., Museum of Modern Art, Tokyo Works displayed at Contemporary Japanese Calligraphy, Art in Sumi, Museum of Modern Art, Tokyo (This exhibit tours Amsterdam, Paris, Hamburg and Rome)
1956	Departure for the United States; settles in New York One-woman show, Swetzoff Gallery, Boston
1957	One-woman show, Art Institute of Chicago, Bertha Schaefer Gallery, New York, Galerie La Hune, Paris
1959	One-woman show, Palais des Beaux Arts, Brussels Group exhibition at Het Kröller-Müller Museum, Otterlo
1960	Begins to produce lithographs
1961	Works displayed at Pittsburgh International Exhibit of Contemporary Painting and Sculpture, Carneigie Art Institute Invited artist at São Paolo Biennial
1963	Designs theater curtain for Meijiza Theater, Tokyo
1964	Produces mural for Yoyogi National Stadium, Tokyo
1965	One-woman show, Betty Parsons Gallery, New York Designs relief mural for Kyoto International Conference Center, Kyoto
1966	Designs mural for Japanese Pavilion at Montreal Expo
1970	Moved to the current Atelier, Minami-Aoyama, Tokyo
1974	Commissioned to make a 28-meter-long mural for the Zojoji Temple, Tokyo, as well as several sliding screen paintings for the monks' exercise hall
1977	Produces mural for official residence of Japanese ambassador, Washington, D.C.
1979	Awarded 27th Japan Essayist Club Prize for Sumi-iro, The Colors of Sumi Major exhibition touring the U.S. entitled Okada, Shinoda, Tsutaka. Three Pioneers of Abstract Painting in the 20th Century Japan, first shown at the Phillips Collection, Washington, D.C.
1983	One-woman exhibition featuring Japanese Traditional Poems, “Hyakunin isshu” traveling to the galleries of Mitsukoshi
1986	Produces set of original lithographs, Hommage au Nobel, for the Nobel Prize
1992	Toko Shinoda Retrospective, Museum of Fine Arts, Gifu, Japan
1993	Commissioned to make a painting for the new Imperial Palace Residence, Tokyo
1996	One-woman show, “Toko Shinoda Visual Poetry”, Singapore Art Museum, Singapore
1999	Makes logo for Tokyo Bunka Kaikan
2001	Solo exhibition produced by Morgan Stanley Dean Witter, Japan, Tokyo
2003	Solo exhibition at the Hara Museum of Contemporary Art, Tokyo Established Toko Shinoda Art Space
2004	Solo exhibition at Gallery SanKaiBi (every year since 2004)
2005	Commissioned to make a painting for the Kyoto Guest House, Kyoto Commissioned to make a painting for the lobby of Conrad Tokyo, Tokyo Selected as “100 respected Japanese in the world” by Newsweek
2009	Solo exhibition, Istituto Giapponese di Cultura in Roma, Rome
2012	One-woman exhibition traveling to the galleries of Mitsukoshi, Isetan H•I•M Empress Michiko’s official visit, Ginza Mitsukoshi
2013	Solo exhibition, Museum of Fine Arts, Gifu. Gifu Collection of Modern Arts, Musée Tomo, Tokyo, Toko Shinoda Art Space, Seki
2014	Solo exhibition traveling to the galleries of Mitsukoshi, Isetan (Tokyo, Matsuyama, Fukuoka)
2015	Solo exhibition traveling to the galleries of Mitsukoshi, Isetan (Tokyo, Matsuyama, Fukuoka) H•I•M Empress Michiko’s visit, Solo exhibition at Gallery SanKaiBi
2016	Solo exhibition at Isetan Mitsukoshi (Tokyo, Matsuyama, Fukuoka), Kobe Daimaru
2017	Solo exhibition traveling to the galleries of Isetan Mitsukoshi (Tokyo, Matsuyama, Fukuoka) H•I•M Empress Michiko’s visit, Shinjuku Isetan
2018	Solo exhibition Ueda Santomyuze, Nagano-Pref., Kosetsu Museum of Art, Hyogo-Pref., Isetan Mitsukoshi (Tokyo, Sendai), Okayama Tenmaya
2019	Solo exhibition at Takahashi City Nariwa Museum, Okayama-Pref.,Tenmaya (Okayama, Fukuyama) Shinjuku Isetan, JR Nagoya Takashimaya, Gallery SanKaiBi
2020	Solo exhibition at Isetan Mitsukoshi (Tokyo, Fukuoka), The Suiboku Museum, Toyama-Pref.
2021	Died on March 1, 2021, Solo exhibition at Isetan Mitsukoshi (Tokyo, Fukuoka), Gallery SanKaiBi

【 Museum Collections 】

Art Institute of Chicago
Albright-Knox Art Gallery, New York
Musée Tomo, Tokyo
The Museum of Fine Arts, Gifu
Gifu Collection of Modern Arts Foundation,Gifu
Het Kröller-Müller Museum, Otterlo
Solomon R.Guggenheim Museum, New York
Cincinnati Art Museum, Ohio
Smithsonian Arthur M. Sackler Gallery, Washington D.C
Toko Shinoda Art Space, Seki City, Gifu
Singapore Art Museum, Singapore
British Museum, London
Tikotin Museum of Japanese Art, Haifa, Israel
Museum für Ostasiatische Kunst, Berlin
The National Museum of Modern Art, Tokyo
Toyama Pref.Museum of Art & Design, Toyama
Niigata City Art Museum
Kunstmuseum Den Haag, The Netherlands
Fogg Art Museum, Cambridge, Massachusetts
Museum Folkwang, Essen, Germany
Brooklyn Museum, New York
Museum of Fine Arts Boston, Massachusetts
Hakodate Museum of Art, Hokkaido
The Metropolitan Museum of Art, New York



【 Particular Collections 】

Tokyo American Club, Tokyo
Kawasaki Municipal Center for International Exchange, Kanagawa
Yukawa Institute for Theoretical Physics, Kyoto University
Imperial Guest House, Kyoto
Imperial Palace Residence, Tokyo
Japan Foundation, Tokyo
Yoyogi National Stadium,Tokyo
Kyoto International Conference Center, Kyoto
Ambassade du Japon en France, Paris
Consulate-General of Japan, New York
Japanese Ambassador's Residence, Washington D.C
The Foreign Correspondents' Club of Japan, Tokyo
Bank of Japan, Tokyo
Istituto Giapponese di Cultura, Rome
Numazu City Hall, Shizuoka
Ford Foundation Collection, New York
Rockefeller Foundation Collection, New York
Asahi Life, Tokyo
De Nederlandsche Bank, Tokyo
Keio Plaza Hotel, Tokyo
Conrad Tokyo, Tokyo
The Capitol Hotel Tokyu, Tokyo
Citibank, New York, Tokyo
Zojoji Temple, Tokyo
Morgan Stanley, Tokyo
Imperial Theatre, Tokyo
Dentsu, Tokyo
DuPont, Tokyo
Hotel Nikko, Tokyo
Pioneer, Tokyo
Palace Hotel, Tokyo
Philip Morris, Tokyo
RKB Mainichi Broadcasting Corporation, Fukuoka
Hotel Okura, Tokyo
Hotel New Otani, Tokyo
KKR Hotel Kanazawa, Ishikawa
Hotel Vitosha, Sofia
Meijiza Theater, Tokyo
Tonen General Group, Tokyo
UBS, Tokyo
The Peninsula, Tokyo
Park Hyatt Kyoto, Kyoto